

亀岡祭開催

次世代へ受け継がれる町衆の心意気



(広報用ポスター)

今年度も亀岡祭を10月24日(土)と25日(日)に実施します。

亀岡祭は、鍬山神社の例祭として毎年10月24日・25日に開催される、亀岡を代表する秋の伝統行事です。京都府登録無形民俗文化財及び亀岡市指定無形民俗文化財に指定されており、丹波亀山城下町の町並みを舞台に、11基の山鉦が巡行します。

地元の子どもたちは秋の本番に向けて、鉦町の大人と一緒に一年を通して稽古に励みます。本番では高い山鉦の上で、堂々の演奏を披露します。

各町によって継承されてきた曲目やテンポが異なるため、山鉦ごとに違う音色や雰囲気のお囃子が楽しめます。

■亀岡祭の概要

事業名	亀岡祭
日時	令和8年10月24日(土)18時30分～21時30分、10月25日(日)9時30分～13時
会場	亀岡市旧城下町一帯
料金	無料
アクセス	JR 亀岡駅から徒歩約10分

【本件に関するホームページ】 <https://www.city.kameoka.kyoto.jp/site/kankou/3544.html>

【お問い合わせ先】 京都府亀岡市 産業観光部 商工観光課 観光振興係 担当：辻（ツジ）

TEL 0771-25-5034 E-mail: syoukou-kankou@city.kameoka.lg.jp

■町衆の心意気が息づく、豪華絢爛な山鉾とお囃子

山鉾町と山鉾紹介

ホームページでも山鉾町と山鉾の詳しい紹介をご覧ください

鉾山神社 上矢田町 大己貴命(大田主命)と昔田別尊(比神天皇)の二柱を祀る、和暦2年(709年)創建の古社。現在の本殿は、文化11年(1814年)に再建されたもので、荘厳な一間社流造の様式が特徴。 秋には約500本の鮮やかな紅葉が境内を美しく染め上げます。 【所在】上矢田町 【建造】1829年 【高さ・重さ】11.0m、2.9t	翁山 三宅町 翁山は、直径145cmの大きな車輪が特徴。前掛幕は三国志の主主人公である劉備、関羽、張飛を描いた「桃園の結義図」。見送幕は「風凰閣八仙図」で文政十二年に西陣、新調された。いずれも京都西陣の大型織物。 【所在】三宅町 【建造】1829年 【高さ・重さ】11.0m、2.9t	蛭子山 塩屋町 大きな鯛を手にして、にっこり笑った蛭子さまがご神体です。3人のオランダ人を描いた京都西陣大型織物の見送幕は、鎖国時代の中で外国の風景を題材にしたもの。 【所在】塩屋町 【建造】1751年頃 【高さ・重さ】3.9m、0.6t	高砂山 柳町 謡曲「財」と「姥」がご神体です。蝶や蝙蝠等をあしらった幾何学模様の刺繍は、教団の仏教道徳で知られる中国江蘇省で織られた毛織物。 【所在】柳町 【建造】1755年 1825年奥山に改造 【高さ・重さ】9.5m、2.3t
羽衣山 西壁町・東壁町 羽衣山のご神体は、謡曲「羽衣」の天女と漁夫。 2002年に130年ぶりに奥山として復元・新調され、懸装品は奥によって手付けされたもの。 【所在】西壁町・東壁町 【建造】1785年頃 2002年再建 【高さ・重さ】11.0m、3.2t	浦島山 兵庫町 浦島山のご神体は、釣竿を手にした浦島太郎。刺繍の天女引と見送幕は、奥野忠兵衛が1799年に寄附したもので、天女引は中国清朝の皇族クラスの官服腰反を糸引に仕立てたもの。 【所在】兵庫町 【建造】1789年頃 1993年復元 【高さ・重さ】3.8m、0.6t	三輪山 本町 奈良県三輪山麓にある大神神社の「大物主大神」をご神体とし、能事「三輪」の旗シテが特徴。 1781年に奥山の神として改築され、併せて刺繍(イギリス製)・見送幕(インド製)を新調。 【所在】本町 【建造】1749年 【高さ・重さ】11.2m、2.7t	武内山 紺屋町 神功皇后が宇佐宮で安産された幼い応神天皇を、武内宿禰が抱いている姿がご神体です。 1807年に新調された見送幕は、中国清朝の皇族クラスが使用する服品。 【所在】紺屋町 【建造】1777年頃 【高さ・重さ】9.4m、2.5t
難波山 矢田町・京町・上矢田町 儒教と漢字を伝えたと言われている「王仁」がご神体。 1799年、難波山に改築されたとき、町衆は10年間にわたって買集め、労、経費を出したと記されています。 【所在】矢田町・京町・上矢田町 【建造】1777年頃 1799年奥山に改造 【高さ・重さ】10.0m、2.5t	稲荷山 新町・旅籠町 稲穂を天棒棒で背負う「稲荷神の倉庫神」がご神体。 1863年に新調された前掛幕は、「浅草地蔵堂文庫蔵珍観」は、中国清朝の皇族が使用するような服品。 【所在】新町・旅籠町 【建造】1751年頃 【高さ・重さ】4.1m、0.6t	八幡山 西町 各鉾町の氏神である旗山神社には、大田主神と八幡神社がお祀りしてありますが、八幡山はこの八幡神がご神体。 八幡山は、もと山として造営されたが、1841年に現在の奥山に改築。 【所在】西町 【建造】1763年 【高さ・重さ】11.6m、2.7t	鉾山 北町 「旗山大明神」をご神体とする旗山の懸装品はほとんどは、1811年に新調されたもので、刺繍部はイギリスのヴィクトリア製のもの。 旗山は2005年、町衆によって奥山に復元。 【所在】北町 【建造】2005年奥山に復元 【高さ・重さ】11.0m、2.6t

主催／亀岡祭山鉾連合会 後援／亀岡市・亀岡商工会議所・(一社)亀岡市観光協会

亀岡祭の大きな特徴は、城下町に立ち並ぶ11基の山鉾です。各山鉾は、それぞれの鉾町で大切に守り継がれており、渡来染織品や京都西陣の綴錦などで飾られた豪華な懸装品は、「動く美術館」とも称されています。

24日の宵宮には、提灯や各鉾町の行灯が城下町を幻想的に彩り、各山鉾からお囃子が響きます。25日の本祭では、11基の山鉾が城下町を巡行し、旅籠町に集結した後、くじ改めの儀が行われます。

■実施の背景

亀岡祭は、鉾山神社の例祭として約400年にわたり受け継がれてきた伝統行事です。各山鉾は、約300年前からそれぞれの山鉾町の町衆が工夫を重ね、浄財を持ち寄りながらつくり上げ、今日まで大切に保存・継承されてきました。

一方で、近年は少子高齢化や人口減少などを背景に、祭を支える担い手の確保が課題となっています。こうした中、令和8年度には山鉾巡行の曳き手のボランティアを募集するなど、地域住民だけでなく、市内外の人にも祭りの担い手として参加してもらおう取組が進められています。

長い歴史の中で育まれてきた「町衆の心意気」を守りながら、多くの人に亀岡祭の魅力を知ってもらい、次の世代へと伝統文化をつないでいくことが、現在の亀岡祭における重要な取組となっています。

【本件に関するホームページ】 <https://www.city.kameoka.kyoto.jp/site/kankou/3544.html>

【お問い合わせ先】京都府亀岡市 産業観光部 商工観光課 観光振興係 担当：辻(ツジ)

TEL 0771-25-5034 E-mail: syoukou-kankou@city.kameoka.lg.jp